

# 中国式考え方は変わらない

日外協は『海外派遣者ハンドブック・中国編』を8年半ぶりに全面的にリニューアルする。  
編集主査を務めた三瀧正道さんに話を聞いた。



麗澤大学 外国語学部 客員教授  
株式会社グローヴァー 顧問 **三瀧正道さん**

## 『人民日報』は一番役に立つ情報源

——中国との出会い、きっかけを教えてください。

小学生の時から三国志や水滸伝が好きで、登場人物たちにあこがれていました。水滸伝は108人の豪傑を全員覚えてしまったほどです。

——情報収集はどのように。

実際に現地に足を運んで、この目で中国の変化を感じてくることはもちろんやっていますが、同時に『人民日報』を毎日原文で読んでいて、もう35年以上になります。読み始めた当初は4面までしかなかったのが、全部読もうと決めました。ところが、その後、8面、12面、16面と増えていき、今では24面。それでも最初から最後まで1時間半ほど読めます。購読料は年間16万円と高いですが、おかげで中国語の力もついています。



人民日報（時事）

「人民日報を全て読むなんて」と中国人からも絶滅危惧種のように思われています。でも、書いてあることからかなりのことが分かります。例えば、同じ国家副主席でも1面に載る人とそうでない人がいて、位置づけを知るこ

とができます。5月に二階幹事長が訪中した時の模様は1面トップで報じられていました。しかも、習近平国家主席も顔を出した。これは、すごいシグナルですよ。中国側が日本との関係をいかに重視するようになったかが伝わってきました。

政府に批判的なことだって時には出てきます。もっとも、後で批判されないように上手に書いてあるのです。高級テクニックとしか言いようがありません（笑）。日本の新聞で報じられる半年から1年も前に分かることだってあります。国家機密漏えい罪になるのではと思えるような記事もあるぐらいです。

オープンソースの情報は実は非常に役に立つのです。ただ、情報をもれなくコンスタントにとって必要な部署にフィードバックするということできていない会社が多いと感じています。だから、どうしても後手・後手に回ってしまい、ビジネスチャンスを逃してしまう。

## 「先例がない」からこそやる中国

——中国では新ビジネスが続々と生まれています。

中国人は失敗を恐れない。失敗して当然、失敗は成功の母と考えています。「先ずやってみよう」が中国式。だから、シェアビジネスが広がるし、ベンチャーやユニコーン企業（企業としての評価額が10億ドル以上）が次々と生まれるのです。日本は「先例になってしまう」、「先例がない」と言っ